

バナラの初期収量が高い仕立て法

【題名の補足】「ネット仕立て法」は初期収量が高い

背景・目的

- バナラは、6次産業化商材として注目されつつあるが、国内での栽培・研究事例に乏しく生産技術が確立されていません。
- 海外の事例を参考に、柱仕立て（図1）とネット仕立て（図2）の2種類の仕立て方法で収量と品質について調査し、高品質安定生産に向けた仕立て方法を検討しました。

成果の内容

- 10a換算収量は、結果開始年から5年間、ネット仕立て区が優れます（表1）。
- 花数および果数はネット仕立て区で優れますが、収穫物の品質（長さ・重さ・太さ・グルコバニリン濃度）は、仕立て法による差はありません（表2）。

表1 年次別10a換算収量の推移

(単位：kg)

試験区	植栽年数							
	(1年目)	(2年目)	(3年目)	(4年目)	(5年目)	(6年目)	(7年目)	(8年目)
	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
ネット仕立て区	0.0	0.0	0.0	24.7	130.1	507.2	1061.0	761.4
柱仕立て区	0.0	0.0	0.0	12.5	44.4	144.7	551.8	533.4

表2 仕立て法によるバナラの品質

年度	試験区	1花穂あたり		長さ (cm)	重さ (g)	太さ (mm)	グルコバニリン濃度 (%w.b.)
		花数	果数				
2018 (6年目)	ネット仕立て区	11.0	2.8	15.6	11.1	-	1.1
	柱仕立て区	8.7	1.8	15.8	11.0	-	1.0
2019 (7年目)	ネット仕立て区	13.1	6.5	15.8	10.6	11.5	1.3
	柱仕立て区	11.1	4.5	15.6	9.9	11.5	1.2
2020 (8年目)	ネット仕立て区	11.7	3.6	15.9	9.4	10.6	1.1
	柱仕立て区	10.9	4.0	15.6	9.2	10.8	1.1

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 県内におけるバナラ生産者の栽培方法の参考となります。

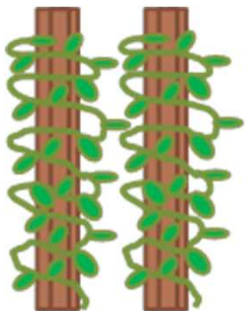


図1 柱仕立て

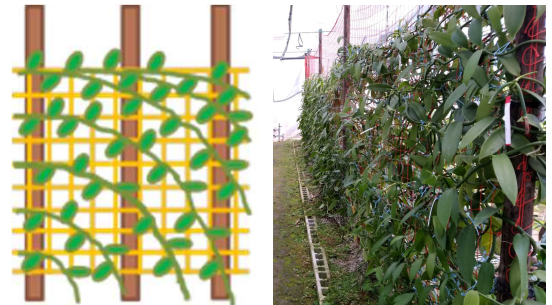


図2 ネット仕立て



留意点

- 亜熱帯作物支場での試験結果です。

関連研究成果カード：2021年度後期 番号55、関連事業名：みやざき次世代果樹ブランド産地育成強化事業、亜熱帯性果樹の産地拡大・新規産地育成が可能な栽培技術の開発(県単)、研究期間：2013～2020年度